

在が必要」という見解もあり、ネットワーク組織が安定的に運営されるような発足当時の体制整備と、恒常的な日常業務の簡便性の両方が重視される必要があるといえる。

- 事務局組織の恒常的な運営については、具体的な事業費の他に事務局運営経費を持たない例も見られ、「事務局運営のための固定財源が必要である」点も指摘されている。実際、現状では交通費その他をネットワーク事業の担当者が個人的に負担している例も見られるのが実情である。

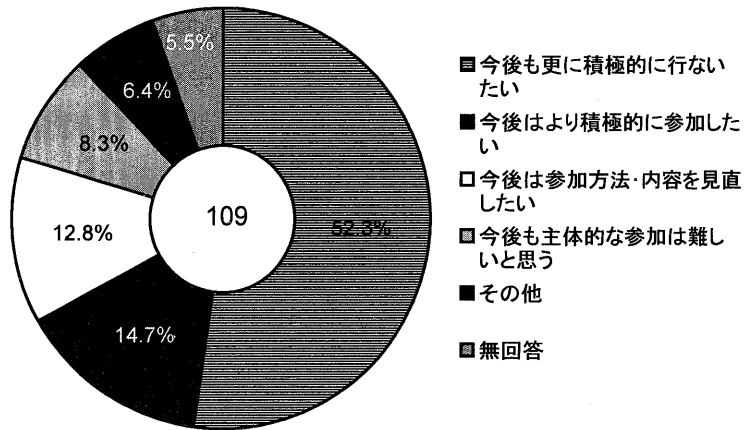
(6) その他の課題

- その他、「所在地域の人口規模の違い」や「文化圏が近すぎて入場者数が伸び悩む」など、周辺公立ホールの立地環境、交通網などの違いから来る地域特有の問題も挙げられている。北海道内で活動を展開している「シアターネットかんげき」では、「道内の交通網が発達していないため、会議開催のために会員が集まることが、物理的に大変」である点が指摘されている。
- ネットワーク活動そのものに関しては、ホールはそもそもオリジナリティが必要であるが、ネットワークを組んで類似の企画を行なえば行なうほど、そのオリジナリティが薄れていくという矛盾点も指摘されている。各ホール独自の企画とネットワークを組んで実施する事業のバランスに配慮し、ホールのオリジナリティを見失わないような工夫が不可欠であろう。

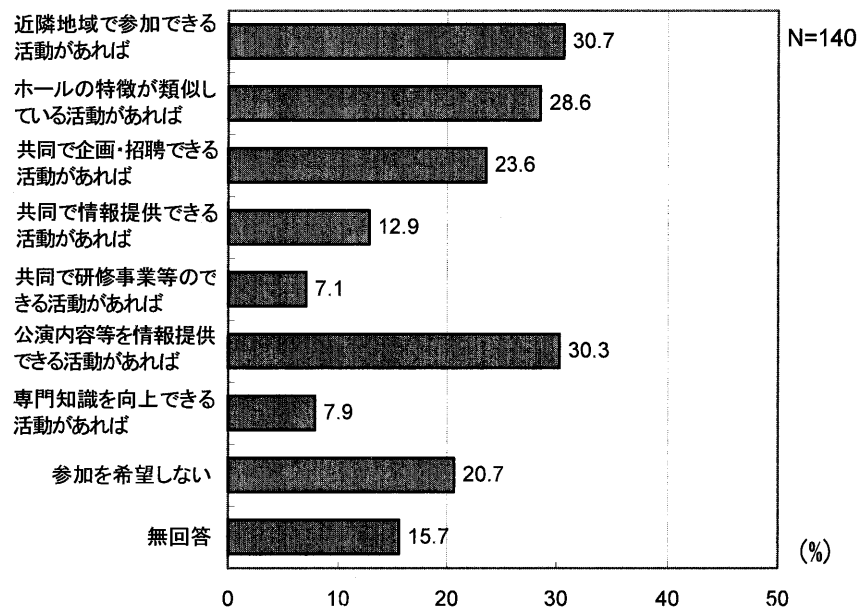
6. ネットワーク活動の今後の展望

- アンケート調査結果によれば、ネットワーク活動を「現在も積極的に推進しており、今後も更に積極的に行いたいと考えている」ホールは、52.3% (57 件) と半数以上にのぼり、更に「現在は話を持ち掛けられて参加しているが、今後はより積極的に参加したいと思う」といった 14.7% (16 件) のホールを加えると、全体の三分の二にあたるホールが、ネットワーク活動を肯定的に捉え、今後とも発展させたい意向を持っているという結果が出ている。
- 一方、「現在は積極的に推進しているが、今後は参加方法・内容を見直したいと考えている」12.8% (14 件)、「話を持ち掛けられて参加したが、今後も主体的な参加は難しいと思う」8.3% (9 件) というホールも 5 館に 1 館の割合であり、ネットワーク活動に対して必ずしも前向きではない印象を持っているホールもある。
- 更に、ネットワーク活動に参加していないホール 140 館に対して今後の参加希望を聞いた結果では、「近隣地域で参加できるネットワーク活動があれば参加してみたい」が 30.7% (43 件)、「他ホールの運営や公演内容について情報交換のできるネットワーク活動があれば参加してみたい」が 30.0% (42 件)、「公演ジャンルや客席規模等ホールの特徴が類似しているネットワークがあれば参加してみたい」が 28.6% (40 件) など、いずれも参加できる環境さえ整備されれば積極的に検討したいと考えているホールが潜在していることがわかる。

図表 I-21 ネットワーク活動の今後の展開



図表 I-22 ネットワーク活動への今後の参加希望
(複数回答 | 現在は参加していないホールの回答)



- ネットワーク活動の今後の展望については、42.2%にあたる 46 件が「他の地域がベースのネットワーク活動団体とも交流し、活動内容を拡大(充実)させたい」と回答しており、「ネットワーク活動への参加ホール数(会員数)を増やしたい」と回答した 20.2% (22 件)を加えると、現在ネットワーク活動を行っているホールの 62.3%が今後更に活動範囲を拡大したいと考えていることがわかる。
- 「シアターネットかんげき」でも、ネットワーク組織による活動が進むことで、ネット

ワーク同士のネットワークができてくることを予想しており、十勝地域でいくつかのネットワークが結びつくことで、地域全体の芸術活動振興につながることに期待をかけている。

- また、「富山県公立文化施設協議会」では、現状のままではこれ以上の各ホールにおける集客力向上は容易ではなく、今後は隣接県である石川県や新潟県にまでネットワークを拡大するための働きかけを検討する意向がある。
- 同様に、「類似ホール企画連絡会議」でもネットワークの活動範囲拡大を考えており、現在参加ホールのない北陸、九州のホールに参加を呼びかけたいということである。ただし、全国ツアーの理想的な公演回数は5回から多くて10回までであり、参加ホール数が30規模にまで拡大すると、巡回公演の際の柔軟性が失われる点も指摘された。
- また、「共同で企画を招聘(共同購入)するだけでなく、共同で一から芝居やコンサートなどを作り上げて行きたい」との回答も34.9%(38件)にのぼり、『招聘型・鑑賞型』のネットワークから、『創造型』ネットワークへの発展を希望しているホールの存在が明らかとなる結果となっている。
- 「シアターネットかんげき」でも、今後の活動を鑑賞事業に限定せず、現在準備中の道立劇場などと連携したソフト事業の可能性を模索する意向も聞かれた。

図表 I-23 活動に対する今後の展望 (複数回答)

